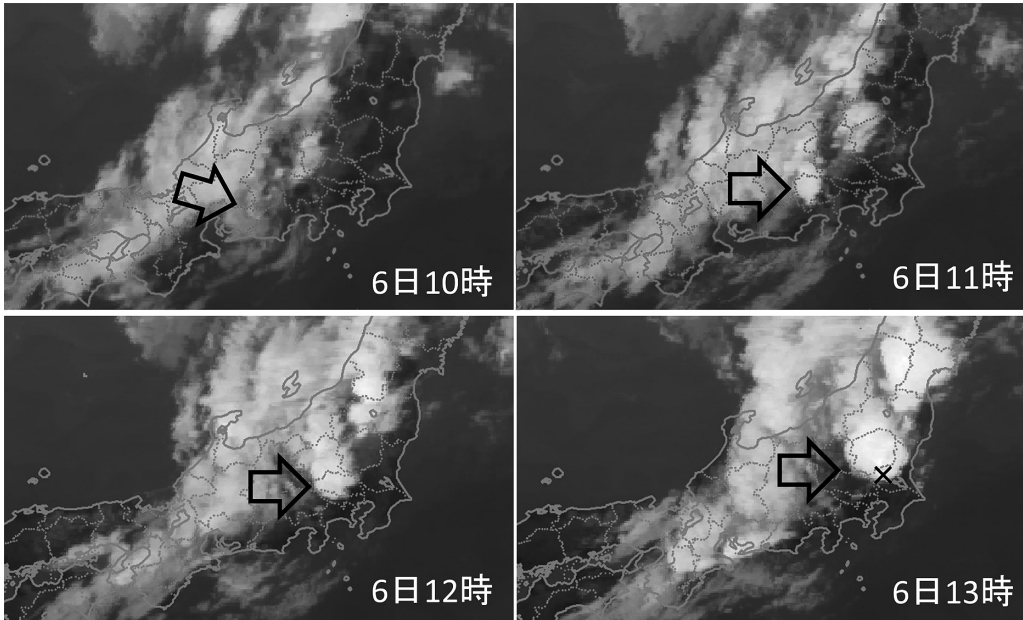


今月のひまわり画像—2012年5月

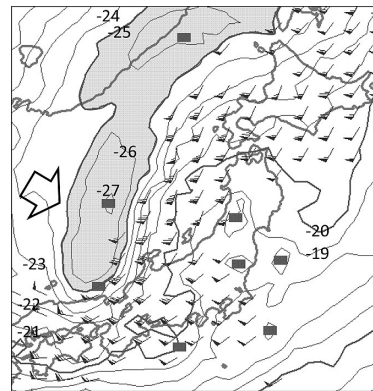
関東地方に甚大な被害をもたらした竜巻



第1図 2012年5月6日10～13時（日本時間）の1時間毎の本州付近における赤外画像（記号×，矢印については本文参照）。

2012年ゴールデンウィーク最終日の5月6日，本州付近は上空に流入した寒気によって大気の状態が不安定となり，各地で落雷や竜巻が発生した．関東地方では気象庁が確認しただけでも4つの竜巻が発生し，茨城県つくば市などでは大きな被害が出た．本欄では，このときの状況を衛星画像で追ってみたい．

第1図に6日10～13時（日本時間）の1時間毎の本州付近における赤外画像を示した．同日，500hPa（第2図）では日本海北部にスケールの比較的大きい上層渦があり，この渦の南では -27°C 以下の寒気コア（同図の矢印先端付近）を持つトラフが東進していた．同日10時頃，愛知・長野・静岡県境付近では複数の積乱雲（第1図左上図の矢印先端付近）が散在するように発生した．これらの積乱雲は発生当初こそ， T_{BB} （等価黒体温度）では雲頂の温度が約 -30°C （高度約7km）で，あまり発達したものではなかったが，北東進するとともに，11時頃には，山梨県西部で直径約80kmのクラウドクラスターになった．その後も，このクラウドクラスターは北東に進みながら発達を続け，13時頃には茨城・栃木県付近で直径が100km以上，雲頂の温度が約 -60°C （高度約17km）にまで



第2図 6日13時の日本付近の500hPa面の風（単位：kt（1kt=0.51m/s），50kt以上表示）及び等温線（ 1°C 毎， -25°C 以下の領域を陰影で表示（気象庁メソ数値予報モデルによる），矢印については本文参照）。

成長し，その南端付近（第1図右下図の記号×）で藤田スケールF3と推定された竜巻が発生させた．

（気象庁予報部予報課 野中信英）